

朝勉強会の取組による様々な学習効果

埼玉県立いずみ高等学校 環境サイエンス科
実習教諭 林 信一

1. 学校の概要

本校は、平成11年4月に、埼玉県の基本理念である「環境優先・生活重視」の具現化として誕生し、全国初の生物・環境系の総合専門高校として設立された。「自然との調和を図りながら生物資源を活用して、環境の保全と創造に寄与するグローバルな視点を持った人間の形成」を目指して、平成23年度で13年目となる。

本校の特色として、1年生では、生物系・環境系としてくり募集で入学しているが、2年生から生物系3学科（生物生産科，生物サイエンス科，生物資源化学科），環境系3学科（環

境デザイン科，環境サイエンス科，環境建設科）の中から，自分の進路希望や興味・関心のある学科を選択することができる。

2. 朝勉強会の取組

本校では，農業系・工業系に関する様々な資格を取得することが可能で，生徒たちの進路目標の実現や教科指導の達成度の確認のために積極的に取り組んでいる。私は，資格取得は「鉄は熱いうちに打て」のことわざのように，早い時期での指導が大切だと考えて，朝勉強会で自学自習の習慣を身につけさせ，毎日の反復学習の徹底による基礎学力の強化を行っている。



数ある資格の中でも、危険物取扱者、一級・二級ボイラー技士、毒物劇物取扱者等の資格取得を中心に行っている。

朝勉強会の効率的な運営のために、以下のようなことを中心に取り組んでいる。

1. 入学式の翌日から、7月末日に行う特定試験を目標に、朝7:30から勉強会をスタートさせる。基本から指導するために、丙種危険物取扱者試験の勉強を始める。部活動やその他の資格取得試験を配慮し、年間数回ある危険物取扱者試験にはいつでも挑戦できるように、毎日朝勉強会を行う。

2. 資格試験終了後、どのような内容が出題されたかを報告書で提出させ、次回の試験の傾向と対策に活用する。

3. 合格発表の日は放課後集合させ、合格した生徒には次の資格への挑戦を促し、不合格の生徒にはもう一度挑戦するよう指導する。

4. 資格取得の勉強だけでは生徒はふだんの勉強に不安を感じるため、朝勉強会で定期考査対策として考査時期には教科指導も行う。

5. 常に授業中や校内で、生徒へ朝勉強会への出席を働きかける。

6. 家庭との連携を図り、保護者の方からの理解を得る。

7. 放課後は自主性を高めるために、ほとんど毎日実習室を開放し、自習可能にしている。



全国ものづくりコンテスト(化学分析の様子)



SPP(サイエンスパートナーシップ)の実験の様子

3. 取組の結果

甲種危険物取扱者試験では、平成20年度に高校生としては、埼玉県で初めて合格者が誕生した。毒物劇物取扱者試験は、11年連続で合格者



を誕生させている。

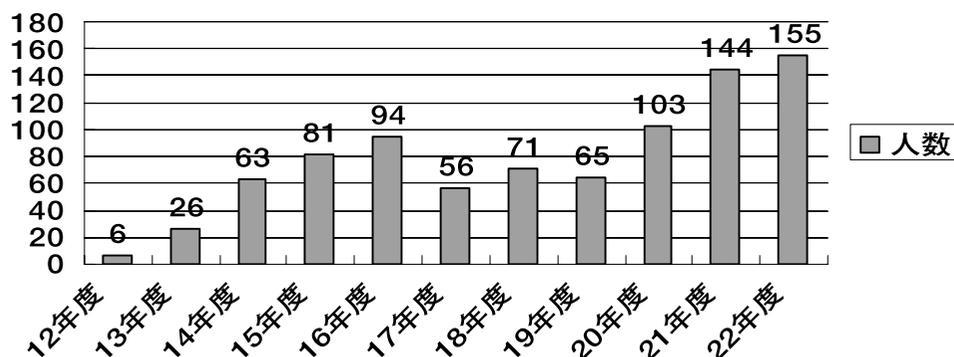
朝勉強会における学習効果として、全国ものづくりコンテスト（化学分析部門）埼玉大会と神奈川大会に出場し、上位の成績を収めた生徒や、SPP（サイエンスパートナーシップ）等にも積極的に参加し、より深い専門内容について

学んだ生徒もいる。学習成績でも、年々クラス上位に位置する者が多くなり、入学時は下位の成績だった生徒でも、朝勉強会への参加によって学力の向上に着実な成果がみられる。

生徒の進路先は、埼玉大学、芝浦工業大学、東洋大学、東京電機大学、日本工業大学、東京

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
丙種危険物取扱者	29	20	27	48	54
乙種1類危険物取扱者	7	6	6	15	14
乙種2類危険物取扱者	5	8	8	16	11
乙種3類危険物取扱者	3	3	8	8	16
乙種4類危険物取扱者	12	13	22	23	21
乙種5類危険物取扱者	9	7	17	15	14
乙種6類危険物取扱者	6	8	13	19	22
乙種全類危険物取扱取得者	4	7	8	7	15
甲種危険物取扱者			2	0	3

危険物取扱者試験合格者一覧



危険物取扱者試験合格者(累計)



乙種全類危険物取扱者試験を取得して表彰された生徒達(15名)

農業大学、日本大学など、工学部だけでなく農学部等にも多数の生徒が入学している。特に、国立埼玉大学に入学する生徒がでたことは、生徒達に良い刺激を与えていると考えている。

このような結果をみてここ数年で、他の学科・教科等でも積極的に資格取得に取り組むようになり成果が見られる。

3年間朝勉強会に休まず参加して、甲種危険物取扱者、一級ボイラー技士、二級ボイラー技士、毒物劇物取扱者試験など難関資格を取得した生徒もいる。

また、中学校説明会でも、資格取得や朝勉強会に関心のある保護者や中学生が数多く見られるようになり、特色ある学校作りの一つとして効果をあげている。

4. おわりに

朝勉強会を通して生徒達が成長している姿を見て、私も非常に嬉しく思っている。最近の高校生は多様化して、目的意識が希薄な生徒が多いと感じている。経済不況といわれている世の中で、日本の伝統技術の継承や最先端技術の発展が難しい状況になっている。

しかし、少資源国の日本は、技術発展を抜きに語れない。大不況といわれる時代だからこそ、実験実習による技術の習得と、資格取得による学習意欲の向上に力を入れる専門高校が必要だと感じている。

朝勉強会を通して、明確な目的意識を育て継続する力により勉強の達成感を身につけさせ、将来の技術者を育成していくことは大変重要なことだと考えている。

平成20年度から、高校生でも一定の条件で甲種危険物取扱者の受験が可能になった。高校生だけではなく、指導する私たちが新たな目標を持つことができ、さらにやる気を感じている。本校でも、2年生の女子生徒が2名埼玉県内で



埼玉県内で初めて甲種危険物取扱者に合格
左：神前江莉子さん(当時2年生)
右：渡辺 文子さん(当時2年生)
(平成20年度)



甲種危険物取扱者、一級ボイラー技士、二級ボイラー技士、毒物劇物取扱者試験に合格
本間将太君(3年生)
(平成22年度)

初めて甲種危険物取扱者試験に、合格をした。今でも試行錯誤の毎日で、生徒に対し満足のいく指導はできていないが、指導方法をより工夫し一人でも多くの合格者を出し、社会に貢献できる実践的技術者を輩出することが私の使命と考えている。

今後も、実習教諭の立場として、出来る範囲で生徒達に達成感と自信を持たせられるように、ひき続き指導していきたいと考えている。